

R. シューマンの歌曲に於ける発想記号の特徴について

真 田 守 計

Eigentümlichkeit des Ausdruckzeichen über Robert Schumanns Liedern

Morikazu SANADA

はじめに

数限りなく書き残された偉大な作曲家の作品を歴史的にひもとき、作曲家の作品の中に意図されたものをいかに忠実に再表現する事が演奏家の最も大切な指命である。作曲家の作品には絃楽器、管楽器、打楽器、ピアノ、オルガン、人の声等々、それらが単独で扱われたり、種々のものが混じり合ったり、時にはそれらがすべて一緒になった演奏形態を持つものもある。交響曲、各種協奏曲、各種トリオ、クワルテット、各種独奏曲、オペラ、ミサ、合唱曲等々、その形態は無数にあるが、その中の声で扱われた声楽曲、又その中の歌曲の面でそれを再表現する時、注意すべき事について述べてゆく。ここで注目しなければならない事は、種々の形態で作曲された作品の中で、言葉を持って作られた唯一の表現形態を持ったものが声楽曲である。「美しい五月、すべての花が花開く時、私の心に愛が芽生えました。」という内容の具体性はどんな楽器を用いて演奏してもその明確な具体性を表わす事が出来ない。R. シューマンの歌曲は、ドイツロマン派の頂点に立つものであり、その音楽のアーティキュレーションは微に入り細に入り最高に注意深く取り扱わなければならないものである。表題にある発想記号とは、作品に色々な表現を指示する音楽での約束された記号で、音の強弱、速度の変化の指示等を与え、より作品が明確に表現される様指示する記号である。その記号は数限りなくあるが、特にその中で、

速度の変化、揺れを現わす *Ritardando* (*Rit. rit.* とも書く) 即ち、だんだんゆっくりするという記号と *accelerando* だんだん早くするという記号と、それを又もとの早さにもどるという *a tempo* と *Tempo I* (最初の早さで) という記号のみを取り上げ、種々の作品を歴史的にみてゆき、特に R. シューマンの歌曲の中で特性があり、演奏する時に注意すべきことを述べてゆく。歴史的とは、R. シューマンに至るドイツ古典派の作曲家、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの初期までと、ドイツロマン派のベートーヴェンの中期以後、シューベルト、シューマンに至るせいぜい 5～60年の間に同じ *rit. a tempo* という同じ発想記号を持って歌曲の表現の形態がどんなものであったか、種々の曲を通して具体的に述べてゆく。

ハイドンの作品について

Franz Joseph Haydn (1732. 3. 31～1809. 5. 31) は生涯に膨大な交響曲、協奏曲、合奏曲、四重奏曲、ミサ曲等々作曲しているが、クラヴィア伴奏の独唱曲としてはおよそ 48 曲作曲しているが、その中の 35 曲について調べた所、*rit. a tempo* の指示のある作品は、*The Spirit's Song = Des Geistes Gesang* (精霊の歌) と、*Trost unglücklicher Liebe* (不幸な愛の慰め) と、*Die zu späte Ankunft der Mutter* (遅すぎた母の到着) と、*Der Gleichsinn* (無関心) の 4 曲の中にしか現れてこない。

譜例1のDie zu späte Ankunft der Mutterの下段より2段目のun poco rit.とa tempoは、わずかに2小節に現われる記号で、極めて理解し易い形である。又次に、Der Gleichsinnの譜例2に於ても、下段より2段目のrit. a tempoはDie zu späte Ankunft der Mutterと全く同様の手法で大変理解し易い形である。他の2曲についても全く同様の取り扱い方で再表現するためには特に注意する問題はなかった。これは、ハイドンの生きた時代はバロックの最後の余韻が残り、テンポの揺れを余り考えず器楽的要素の中で作品が書かれていった様に思われる。

モーツァルトの作品について

Wolfgang Amadeus Mozart (1756. 1. 27~1791. 12. 5) はハイドン同様、膨大な作品を書いているが、生涯にクラヴィア又はマンドリン伴奏付き歌曲を34曲書いているが、その中の26曲について調べた所、rit. a tempoとしての記譜法を取っているものは、めづらしい事に1曲も見当たらなかった。しかし、Das Veilchen (すみれ) K. V. 476に於て速度を指定する大変面白い特徴的な所がある。rallentando a tempoとして作品に書かれているが、rit. a tempoと殆ど同義語であるので、このDas Veilchenについて考察してみたい。譜例3の中の53小節目から64小節目のa tempoに至る速度の設定であるが、Es sank und starb und freut' sich noch (《踏みつけられて》倒れ死んだにもかかわらずそれを喜びとした)の55小節の2拍目の八分音符までが前後の詩の内容からrallentandoとして明白である。そしてund sterb ich denn, so sterb ich doch durch sie zu ihren Füßen doch!! (そうだ私すみれは、彼女の足元で死のう!!)という、すみれの強い意志をモーツァルトは曲を早める事によって表現していると思う。つまり55小節目の最後の八分音符から59小節の1拍目の♪のSieの歌詩の部分までがstringendo (急いで)である。そして次のzu ihren Füßen doch (彼女の足下であってもよい。《本来すみれは娘さんに摘まれて、

そっと彼女の胸に押しあてられる事を望んでいたが》)はモーツァルトが曲を終結させるための書法で、すみれの願望があきらめの中で死んでいく様をテンポをゆるめる事により表現しようとしている。つまり59小節目の最後の16分音符3つから61小節目までがrallentandoである。詩人ゲーテは、ここまでしか詩を書いていないが、最後の5小節に現れるDas arme Veilchen! Es war ein herzigs Veeilchen. (あわれなすみれ、でもすばらしいすみれだった。)は多分モーツァルト自身が補って彼自身の意志を示し、曲をしめくくったものと私は思う。

モーツァルトの歌曲の殆どのものが有節歌曲から出来ているのに、この「すみれ」の1曲のみが形式的には、まるで劇物語的に扱われ、最後の5小節の音楽のテンポの揺れはその後に來るドイツロマン派歌曲のきざしさを示している様に思われる。全く特徴のある1曲である。

ベートーヴェンの作品について

Ludwig van Beethoven (1770. 12. 17~1827. 3. 26)はその作品や様式等について説明するには余りにも膨大の質、量があり、その面での展開は全く省略するが、歌曲の面ではAdelaide op. 46, Sechs Lieder von Gellert, op. 48. No. 1~No. 6やSechs Gesänge, op. 75 No. 1~No. 6までの初期の22曲の中にはハイドン、モーツァルトの時代の余韻が残り、rit. a tempoという形は全く現れてこないが、Hoffnung op. 82からrit. a tempoが初めて現れてくる。Drei Gesänge von Goethe (ゲーテの三つの歌) op. 83. No. 1~No. 3の中には大変はっきりした速度標示が現れ初める。ベートーヴェン中期の、歴史的にはドイツロマン主義音楽の始まりである。その中で歴史的に大変大きな意義を持つAn die ferne Geliebte (はるかなる恋人に) op. 98について考察してみたい。ベートーヴェンの作品は、1782年からボン時代と1814年からのウィーン時代前期はハイドンの影響を受けた古典期と1814年頃のロマン期の始まりがあり、更に1817年頃から死に至る孤高期とも言える時代を持っているが、1816年に書かれたAn die ferne Geliebteは

音楽史上初めて現れた連作歌曲である。この連作歌曲様式はシューベルトの連作歌曲「美しき水車小屋の娘」や「冬の旅」へと、又シューマンの作品39の「リーダークライス」や作品42の「女の愛と生涯」そして作品48の「詩人の恋」等に強い影響を与え、その形式が受け継がれたものである。このベートーヴェンのロマン期の最もみずみずしい *An die ferne Geliebte* は A. Jeitteles の 6 つの詩に書かれた 6 曲から成る歌曲集で、第 1 曲目のテーマを第 6 曲目で再度現わす形式はシューマンの「女の愛と生涯」や「詩人の恋」で全く同じ形式に取り入れられ、強くシューマンに影響を与えたものと考えられる。

第 1 曲目「丘に座ると」譜例 4 のテンポは *Ziemlich langsam* (かなりゆっくり) で始まり 42 小節目で *Nach und nach geschwinder* (だんだん急いで) と 46 小節目に向ってテンポが早まってゆき 46 小節目では *Allegro* の大変早いテンポへ移ってゆくが、この 4 小節のアーティキュレーションは明確に理解出来る。

第 2 曲目「山は青く」は *Ein wenig geschwinde Poco Allegretto* で前曲よりも少な目に急いでという指示で第 1 曲目のテンポより遅目に奏される。そして 31 小節目から 33 小節目にかけてテンポが上げられ、*Assai Allegro* と大変早いテンポへと移行する。ここで更に 34 小節目の 1 拍目には *ten* テヌートがかかり大変早いテンポの中でその音のみ丈を保つ様指示があるが *sin-nig* (心ある) という語をベートーヴェンは強調し大切に扱っている。そして更に 39 小節目では突然 *poco Adagio* が現れ *innere pein* (心の深い苦しみ) という語に大きな強調を持ってきている。更に同様に 46 小節目では *ewiglich sein* (永遠に) を突然テンポを落として言葉の強調を行っている。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの初期の古典時代に属する歌曲ではこのような急激なテンポの変化は全く見当たらないものである。古典時代の歌曲が、さらさら横へテンポに乗って流れて行っていたがここで初めて人の心の内部を表現させようとした特徴のある表現法である。

第 3 曲目「軽やかな雲よ」の 31 小節の *rit.* は 33 小節のピアノ譜の 1 拍目と 2 拍目で *a tempo* され、3 拍目と 4 拍目と 34 小節の 1 拍目の計 4 分音符 3 つ丈で *rit.* される。34 小節目の 2 拍目は *a tempo* され曲の初めの *Allegro assai* に変る。この形は 41 小節から 44 小節にかけて全く同じ扱いが現れるが、このようなテンポの変化の指示は第 2 曲目と同様ハイドン、モーツァルト、初期ベートーヴェンの作品の中には全く見られず、ベートーヴェンのロマン期の最高に特徴のある表現法であり、人間の心の内部の叫びを外へ出させる表現法である。このようなテンポの微妙な変化、アーティキュレーションは、次の時代の歌曲の王と言われたシューベルトの中にも現れてこない。シューベルトはベートーヴェンの亡くなった次の年に 31 歳で他界しているので全く同時代に生きた人で、ベートーヴェンの次の時代とは言えないかも知れないが。

第 4 曲目「雲よ、小鳥よ」は殆ど変化なく、*Nicht zu geschwinde, angenehm und mit viel Empfindung* (急がず丁度よい速さで快く豊かな感情を持って) で曲が進み、35 小節目の *unverweilt* の歌詩の音符から次の第 5 曲の *Vivace* のテンポに突入してゆく。

第 5 曲目「五月は戻り」では *Vivace* の大変早いテンポで始まり 4, 5, 6 小節の 3 小節で急に大変ゆっくりしたテンポになるが 7 小節目ではすぐに *Vivace* に戻り 55 小節目まで一定の早さで進む。60 小節目の *rit.* は 65 小節目の *Adagio* まで 5 小節という永い時間をかけてテンポをおとしていっているが、当然歌詩の持つ内容(我々の恋には春がやって来ない。ただただ涙だけが生ずるのみだ。)という暗いイメージが *adagio* を生み出し、心の内部の吐露を要求している事が分る。

第 6 曲目「この歌に別れを告げよう」は全曲の中でも一番ロマンの香りの高い曲であるが、18 小節目から 26 小節目の *Molto Adagio* まで 8 小節に渡り *rit.* をかけて大変ゆっくりしたテンポに持っていっているが、この *singst* という言葉にベートーヴェンは奏者の心の奥の深い感受性と強烈な表現を要求している。*singst* の H の

音から次のCの移行は、この曲全体の中で一番心の込められた生きた音でなければならない。この音の延び方と感情の込められた音は文章に書き表す事は出来ない。44小節目からは除々に早くなり48小節目で Allegro に入ってゆく様は明確で、怒濤の如く最後に向って音楽は進んで終りを迎える事がよく分る。ベートーヴェンのその他の歌曲66曲すべてを調べてみたが、その記譜法は実に厳格で、何度も何度も推敲された高貴な深い音楽が書かれている事がよく分る。ベートーヴェンの歌曲を歌う時には、楽譜に限りなく忠実で詩の中にある言葉の深い理解を持たなければ彼の意図したものを表現出来ないであろう。

シューベルトの作品について







Franz Peter Schubert (1797. 1. 31~1828. 11. 19)は歌曲の王と呼ばれ生涯に六百数十曲の歌曲を書いたと言われるが、ペーター版が発行している歌曲集には852曲が収められている。そのすべてについて調べた所、99%がテンポを設定する発想記号を持って正確に書かれており、再表現する時に困る様な所は見当たらなかったが、歌曲集「白鳥の歌」の中にあるハイネの詩に依る Doppelgänger (影帽子) と Lied der Mignon op. 64 No. 2 (ミニョンの歌) と Ganymed op. 19 No. 3 (ガニメート) の3曲の中に面白い記譜法があった。譜例5の Doppelgänger の43小節目のピアノ伴奏部分に *accelerando* が書かれているが、それを元の早さに戻す記号がどこにも書かれていない。1828年、シューベルトの死の年の作品であるが体力も衰えてゆき、この影帽子はシューベルト自身の姿であったかも知れない。この歌の音の頂点は40小節目のGの音であるが、43小節目のDu Doppelgänger, (汝、影帽子よ、青ざめた仲間よ……この場所で私を苦しめた。) という49小節目がこの詩の持つ結論で、51小節目で元のテンポに戻るべきと私は解釈する。しかし、この恐ろしい不気味さを持つ詩と音楽の前には、*in tempo* や *a tempo* の記号等は必要ないと思う方がきっと正しいのであろう。次に Lied der

Mignon 譜例6の27小節目のピアノ伴奏譜に *a tempo* が書かれているが、それ以前の楽譜に速度に関する発想記号はどこにも書かれていない。これは曲の最初から26小節目まで、歌もピアノも単純なリズムの進行で27小節目に入ってピアノの右手に16分音符の6連音符が現れ、急に右手のリズムが早くなった様に感じ易い所をシューベルトは *a tempo* と記し、ここは「正確な早さで」奏する様に、という指示であると思われる。これ程明確ではないがシューベルトの *a tempo* という指示が「正確なテンポで」を意味する曲が少々あった。次に Ganymed 譜例7の7小節目のピアノ譜に *Un poco accel* (少し急いで) の指示があるが、これを元に戻す記号は矢張りどこにも現れない。詩の内容からして、Ich komm / ich komme / ach / wohin? (私は行きます。ああ、どこへ?どこへ?)と主人公の心の不安定要素が17小節の3拍目迄続き、次に *Es schweben die Wolken abwärts*, (雲が下方に漂い) の詩で主人公は上方へ上方へと昇っていったが雲の上に来て了った所で安定する。ピアノ譜でも7小節目から17小節目の3拍目まではスタッカートが記され、急いでいる不安定なものが描かれている様に思われる。スタッカートの無くなった18小節目は速度が安定していなければならないと思う。その他の曲で発想記号(テンポの)の伴断に困る曲は全くなく、泉の様に湧き出したシューベルトの歌曲の楽想も正確な記譜がされている様思われた。

シューマンの作品について

Robert Alexander Schumann (1810. 6. 8 ~ 1856. 7. 29)

シューマンが歌曲を書き初めるのは17才の頃であるが翌年の18才にかけて書いた11曲の歌曲が初期の作品でその後10年間は殆ど書いていない。クララとの結婚の年、いわゆる「歌の年」と言われる1840年には彼の代表作がすべて書かれ、その年に彼の全生涯に作曲した250曲位の中の140曲余り、つまり全歌曲の6割に近い歌曲が1年の間に書かれている。その歌の年に書かれた26曲からなる歌曲集「ミルテの花」の第一曲

Widmung（献呈）作品25の1（譜例7）の13小節目にピアノ譜に現れる rit は次の14小節目で Edur に転調し、テンポの設定はない。ここでは2つの解釈が可能と考えられる。1つは最初の第1小節目のテンポに戻る事。2つ目は1小節目から続いてきた    のリズムの躍動感と詩の持つ浮き立つ様な喜びが14小節目からはピアノの右手が三連音符で現れ、そして詩が大変心落ち着く内容になっている事で、As dur で始まった全体よりはごくわずかにテンポを遅らせた方が良いという解釈。次に25小節目の rit は次の26小節目でテンポの設定が書かれていない。又、次の28小節目の rit は29小節目の1拍目はこの曲の第1小節目のテンポに戻っていなければならないが、ここにもテンポの設定が無い。そして又37, 38小節目の rit は39小節目のピアノが    の躍動するリズムの中にテンポを戻し、40小節目の rit は次の41小節目で a tempo され42小節目の rit に入ってゆかなければならない。そうしないと、シューマンの rit は次から次へと遅くなっていったらならぬ事になる。

次にミルテの第24曲 Du bist wie eine Blume（汝、花の如く）譜例9の13小節目のピアノの rit は次の14小節目ではテンポが元に戻っていなければならない。そして16小節目の rit は次の17小節目でピアノが正しいテンポを取らなければならないが、ここでもテンポの設定記号がない。

次にリーダークライス作品39の5曲目 Mondnacht（月の夜）譜例8はシューマンの歌曲の中でも最もロマンの香りの高い曲であるが、4小節目のピアノの rit は5小節目で除々にテンポを戻し、6小節目の1拍目では正しいテンポを取らなければならない。22小節目の rit は次の小節の1拍目の16分音符までである。又26小節目の rit は27小節目で除々にテンポを戻し、28小節目では正しいテンポの3拍子を取らなければならない。又43小節目のピアノの rit は次の44小節目で除々にテンポを戻し、45小節目では基本に流れるテンポになっていなければならない。そして又48小節目の rit は次の小節では

元の早さに戻されていなければならないがここにもテンポの設定がない。

次に歌曲集「詩人の恋」作品48の第3曲, Die Rose, die Lielie, die Taube（バラよ、ゆりよ、鳩よ）譜例10の12小節目の rit は13小節目でテンポを殆ど戻し、14小節目では完全に元の早いテンポに戻っていなければならない。そして17小節目の rit は、すぐ次の18小節目で完全な元の早さに戻っていなければならないがテンポの設定がない。又4曲目の Wenn ich in deine Augen Seh'（貴方の瞳を見る時）譜例11の13, 14小節目の rit は ich liebe dich / ままで、so muss ich は正しいテンポの中にあらねばならないが矢張りテンポの設定が書かれていない。この様にシューマンの歌曲の多くは rit. a tempo の記入のないものが沢山あるが、Liederkreis op 39 の2曲目 Intermezzo の14小節目の rit は、すぐその小節に Im Tempo と書き込みがある。又4曲目の Waldesgespräch の40小節目の rit は次の41小節目で Im Tempo と書かれ正確に速度設定がなされている。その他にも明確に速度設定された曲は多々見受けられるが、シューマン、ベートーヴェン、シューベルトの曲が出来上るためには、その時代時代に偉大な詩人の詩があったからこそ、その詩の持つ力が作曲家の魂に曲を書かせた事になる。数々の名歌曲を再表現する時、最も心掛けなければならない事は、作曲家の音より以前に、正しい詩の解釈を行い、作曲家の意図したものを捜し出す事が歌曲を歌う時の一番大切な事と言えるだろう。

Die zu späte Ankunft der Mutter

譜例 1

Allegretto

Christian Felix Weisse

1. Be - schüt - zet von blu - hen - den A - sten,
2. Sie sa - gen sich so - her - sen - de Lie - der;

ge - kü - let von spie - len - den We - sten,
sie wart ihm mit Blu - men, er wie - der, Sie lag

Ro - si - lis am Ba - che hier und Ry - las ne - ben ihr, lag Ro - si - lis am Ba - che hier und
neck - te sie, er neck - te sie, wie lang und wie, sie neck - te ihn, er neck - te sie, wer

Ry - las ne - ben ihr, weiß wie lang und wie! Finis

3. Von Lenz und von Liebe geführt,
Ward Kylas zum Küssen verführt.
! Er küßte sie, er drückte sie,
Daß sie um Hilfe schrie. !

Edition Peters.

40921

Der Gleichsinn

譜例 2

Vivace

J. J. Eschenburg

um ein schö - nes Mäd - chen sein? Sei auch ih - re Wa - ge rot,
um ein rei - ches Mäd - chen sein? An - ge - flammt von Gel - des - be - ge - hr.

Schön sei sie, so schön sie mag, schön als ein Frühlings - tag;
Wenn sie da - von Stolz ge - blüht, arme Red - lich - keit ver - schmäht,
we - ni - ge - mein - da - bei ver - gis - t, Lie - be - nur nach Reich - tum miß.

was frag ich, wie schön sie ist, wenn sie mein da - bei ver - gis - t, was frag ich, wie
was frag ich, wie reich sie ist, Lie - be - nur nach Reich - tum miß, was frag ich, wie

schön sie ist! reich sie ist!

3. Reisend, kärtlich, fromm und reich,
Allen, Mädchen, gilt mir Gleich.
Liebt du mich, so storb ich eh,
Als ich dich verlassen seh.
Doch versichst du mein Flohn,
Wohl, auch ich kann dich verschmähn!
! Wenn dein Herz für mich nicht ist,
Was frag ich, für wen du bist! !

Edition Peters.

40921

譜例 7

Ganymde op.19. No.4 の部分

Nach - ti - gall lio - bind mich mir aus dem No - bel - sal.

4

lio - bind mich mir aus dem un poeo aeeel.

8

ich kom mel ach! wo hin?

12

hin? hin - auf streb's, hin-auf! hin -

16

auf streb's, hin-auf! Es schwe-hen die Wol-ken ab - wärts, die

20

Wol-ken nei - gen sich der seh - nen - den Lie - ba.

譜例 4

An die ferne Geliebte

Ein Liederkreis von A. Jeitteles
Dem Fürsten Joseph von Lobkowitz gewidmet

Dem Fürsten Joseph von Lobkowitz gewidmet

I. Ziemlich langsam und mit Ausdruck.

Op. 98

Auf dem Hü - gel sitz ich, spähend in das blau - e Ne - bel - land, nach den

6

fer - nen Triften se - hend, wo ich dich - gelieb - te, fand.

11

Weit bin ich von dir geschieden, trennend liegen Berg und Thal zw - schen

16

uns und unserm Frie - den, unserm Glück - und uns - rer Qual.

20

Ach, den Blick kannst du nicht so - hen, der zu

Edvard Grieg

37

bin zu mei - ner Her - zens - wahl mei - ne Seuf - zer,

40

die ver - ge - hen wie der Son - ne lets - ter Strahl.

44

Flüster' ihr zu mein Lie - bes - fle - hen,

47

laß sie, Blüch - lein klein und schmal, treu in del - nen

50

Wo - gen se - - hen mei - ne Tränen ohne Zahl -

9535

Edition Peters

19

laß mein Bild vor ihr ent - ste - hen, in dem Luft - gen

22

Him - mels - saal.

25

Wird sie an den Bü - schen ste - hen, die nun herbstlich fahl und kahl,

29

klagt ihr, wie mir ist ge - sche - hen, klagt ihr, Vög - lein, mei - ne Qual!

33

Stil - lo Wo - ste bringt im Wo - hen

9535

Edition Peters

19
schwätzig die Bi-che nun rin - nen. Die Schwalbe, die keh-ret zum
Nun woh-nen die Gat-ten bel-sam-men so treu, was Win-ter ge-schle-den, ver-

23
wirt-li-chem Dach, sie baut sich so em-sig ihr bräutlich Gemach, die Lie-be soll woh-nen da
band nun der Mai, was lie-bet, das weiß er zu ei - nen, was lie-bet, das weiß er zu

27
drin - nen, die Lie-be soll woh-nen da drin - nen. Es
ei - nen.
cresc. p

31
Sie bringt sich geschät-tig von Kreuz und von Quer manch
keh-ret der Mai-en, es blü-het die Au. Die Lail - o, sie we-ken so mil - de, so lau. Nur

35
wel-che-res Stück zu dem Brautbett hie-her, manch war-men des Stück für die Klei - nen.
Ich kann nicht zie-len von hin - nen. Wenn al - les was lie-bet, der Frühling vereint, nur

Edition Peters

9525

Edition Peters

9525

60 *ritard.*
un - se - rer Lie - be kein Frühling erscheint und Trä - nen sind all ihr Ge - win - nen, und
dim. sf p

64 *Adagio*
Trä - nen sind all ihr Ge - win - nen, ja all ihr Ge - win - nen.
pp

VI. Andante con moto, cantabile

6
Nimm sie hin denn, die - se Lie - der,
pp

11
die ich dir, Ge - lieb - te, sang, sin - ge sie dann a - bends wieder zu der Laut - te
pp

16 *ritard.*
sä - ß dem Klang! Wenn das Dämmerungsrot dann zie - het nach dem stillen blauen
ritard. dim.

21 *pp*
See, und sein letz - ter Strahl ver - glü - het hin - ter
pp

24 *Molto Adagio Tempo I*
je - ner Ber - ges - höh, und du singst, und du singst, was
pp

28
ich gesun - gen, was nur aus der vol - len Brust oh - ne Kunst - ge - präg erklingen,
pp

33
nur der Sehnsucht sich be - wußt, nur, nur der Sehnsucht sich be - wußt.
cresc. p

38 *Ziemlich langsam und mit Ausdruck*
dann vor die - sen Lie - dern wei - chet, was ge -
*
43 *Nach und nach geschwinder*
schlie - ßen uns so weit, und ein lie - - bend Herz er -
*
46 *Alliegro molto e con brio*
rei - chet, was ein lie - bend Herz ge - weilt,
und ein
51
lie - bend Herz er - rei - chet, was ein lie - bend, ein lie - bend Herz ge -
*
56
weilt! Dann, dann vor die - sen Lie - dern
*
60
wei - chet, was ge - schlie - ßen uns so
*
64
weit, und ein lie - bend Herz er - rei - chet,
was ein
69
lie - bend Herz, ein lie - bend Herz ge - weilt, was,
was ein lie - bend,
75
lie - - bend Herz - - ge - weilt!
*
80
dimin. *p* *cresc.* *ppp cresc.* *f sf*

Lied der Mignon.

Aus „Wilhelm Meister“ von Goethe.

譜例 6

Langsam.
ppp legato
cresc.

Op. 62, No. 4.

5

pp

Nur wer die Sehnsucht kennt, weiß, was ich lei - de,

11

pp

nur wer die Sehnsucht kennt, weiß, was ich lei - de! Al -

16

pp

lein und ab - ge - trennt von al - ler Freu - de, seh ich aus Fir - ma - ment nach je - ner

21

sehr leise
pppp

dimin.

Sel - te. Ach! der mich liebt und kennt, ist — in — der Wei - te.

dimin.

9023

Edition Peters.

27

a tempo

es
Es schwin - delt mir,
cresc.

es
braunt mein Ein - ge - weid - de, es schwin - delt mir,
decresc.

braunt mein Ein - ge - weid - de.
decresc.

Nur wer die Sehnsucht kennt, weiß, was ich

lei - de, nur wer die Sehnsucht kennt, weiß, was ich lei - de!

cresc.

9023

Edition Peters.

譜例 7

Myrten.

I.

Widmung.

(Rückert.)

Robert Schumann, Op. 25
(Original-Ausgabe.)

1. Innig, lebhaft.

Singstimme.

1.

Pianoforte.

Du meine See - le, du mein

52a * 52a * 52a *

3.

Herz, du meine Wom, o du mein

52a * 52a *

5.

Schmerz, du meine Welt, in der ich le - be, mein Him - mel

52a * 52a *

Edition Peters Nr. 2383a

9307

8.

du, dar - ein ich schwe - be, o du mein Grab, in das hin -

52a * 52a *

11.

ab ich o - - wig mei - nen Kum - . mer gabi

52a * 52a *

ritard.

14. $\frac{1}{4}$ p

. Du bist die Ruh', du bist der

52a * 52a *

17.

Frie - den, du bist vom Him - . . . mel

52a * 52a *

Edition Peters.

9307

20
mir — be - zie - hen. Daß du mich liebst, macht mich mir
32
Wenn' — o du mein Schmerz, du meine Welt, — in der ich
35
la - be, mein Him - mel du, — das - ein ich schwe - be, mein gu - ter
steigend und ritard. -
38
Geist mein bess - res Ich! ritard.
41
Du meine See - le, du mein Herz. du meine
ritard. -
Edition Peters 9307

譜例 8

V.
Mondnacht.

Op. 39, No. 5.

Zart, heimlich.

4

7

14

20

22

26

ritard.

p

Die Luft ging durch die Fel - der,

Edition Peters.

9307

32

32

38

43

44

48

49

55

ritard.

p

Und mei - ne See - le span - ne

weit h - ie Flü - gel aus,

flog durch die still - len

Lan - den, als flü - ge sie nach Haus.

Edition Peters.

9307

IV.

Wenn ich in deine Augen seh'.

Langsam *p*

Wenn ich in dei - ne Au - gen seh', so
 ich mich leh'n an dei - ne Brust, könn't's
 ü - ber mich wie Him - mels -

12 13 *ritard.*

hast doch wenn du sprichst: ich lie - be dich so maß ich
 ritard.

wei - ßen bit - ter - heit.

p *rit.*

pp *ritard.*

Edition Peters. 9807

譜例11

Wenn ich in deine Augen seh'.

Langsam *p*

Wenn ich in dei - ne Au - gen seh', so
 ich mich leh'n an dei - ne Brust, könn't's
 ü - ber mich wie Him - mels -

12 13 *ritard.*

hast doch wenn du sprichst: ich lie - be dich so maß ich
 ritard.

wei - ßen bit - ter - heit.

p *rit.*

pp *ritard.*

Edition Peters. 9807